

1. 研究主題

馬渡小中学校 教育のユニバーサルデザイン化

2. 主題設定の理由

2.1. 社会的な背景

近年では、平成 28 年度の発達障害者支援法の改正、平成 30 年度の高等学校における通級による指導の制度化、平成29年度・30年度の小・中・高等学校学習指導要領における特別支援教育に関する記述の充実など、発達障害を含め、学習に困難を抱える児童生徒をめぐる状況の変化があった。文部科学省が令和4年の12月に行った調査によると、通常の学級に在籍する「学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒の割合」が推定値 8.8%となっている¹。また、コミュニケーションに問題がないために、読み書きに困難を抱えているとしても、本人はもちろん、保護者や教師が見過ごしてしまうというケースがあることも指摘されている²。

一方で、社会がますます多様化するにしたいがい、インクルーシブやユニバーサルデザインという考えが教育にも浸透しつつあり、普通教育の環境における児童生徒の多様化も進んでいる。

2.2. 本校における現状

教育においてもこれまでのカリキュラムを変える必要に迫られている。本校でも、識字に困難を抱える児童生徒や、自分の感想を述べることに抵抗のある児童生徒、指示が理解できずに困惑する児童生徒など、学習や生活に困難を抱える児童生徒が見られる。また、昨年度まで特別支援学級に在籍しており、今年度より通常学級に戻った児童生徒もいる。このような状況の中で、授業に関わる教師は多忙な職務の中でも様々な工夫を施し、児童生徒が学習に対するモチベーションを持って取り組めるよう実践してきた。しかしながら、時間の制約のため、児童生徒の実態を正確に把握し、職員間で共有する場面や、児童生徒の困難に対する効果的な指導法を検討する場面が十分に設定できていなかった。

3. 研究目的

本研究の目的は主に以下の3点である。

3.1. 児童生徒の学習に対する意欲の向上

発達障害の二次障害に関する研究や、学習性無力感に関する研究から分かるように、学びに対して困難を抱えた児童生徒は、学習そのものに対する意欲が低下する傾向にある^{3,4}。反対に、十分な支援が得られた状態では、児童生徒は学習に対する意欲を高める。現状よりも、児童生徒に、さらに意欲的に学習に取り組む状態にさせることが、第一の目的である。

3.2. 教職員の指導力の向上

本研究を通して、教育に関わる全ての職員は、ユニバーサルデザインや特別支援に関する知識を得、また実践において活用する機会を持つ。この機会を通して、児童生徒をより深く理解し、指導力を向上させることが第二の目的である。

3.3. 支援体制の構築

社会的な変化に柔軟に対応するためには、組織的な取り組みが必要となってくる。そのため、少ない負担で効果的な教育を実践するための支援体制を構築することが、第三の目的である。

4. 研究仮説

4.1. 児童生徒に関する仮説

ユニバーサルデザインの観点から授業改善を行うことで、児童生徒が現状よりもさらに意欲的に学習に取り組むことができると考えられる。

4.2. 教職員の指導力向上に関する仮説

ユニバーサルデザイン化への組織的な研究を行うことで、教職員の指導力が向上すると考えられる。

4.3. 組織に関する仮説

校内の支援体制を構築し、年間を通して改善を加えていくことで、教職員の負担を増やしすぎず、効果的な教育が実践できると考えられる。

5. 研究内容

5.1. 教育のユニバーサルデザイン化

- ・ 実態に基づいたユニバーサルデザインを意識した授業づくり
- ・ 公開授業または研究発表による取り組みの検討

5.2. 効果的な支援体制の構築

- ・ 実態把握と改善のための短時間ミーティングの設定
- ・ ユニバーサルデザインに関する情報の収集と共有
- ・ アーカイブの作成

6. 研究組織

研究推進委員会 校長1名、教頭2名、教務2名、研究主任1名、研究副主任1名の計7名 校内研究会 小学校および中学校の教職員 ★ 組織的に取り組むことを重視して、教育のユニバーサルデザイン化を行う
--

7. 年間計画

月	校内研修の内容
4	・研究内容の共有 ・児童生徒の実態把握 ・校内支援体制の構築
5	・課題の共有
6	・UD化に向けた手段の共有と実践 ⁵
7	・成果と課題の共有
8	・1学期の課題に応じた全体研修会 ・2学期へ向けた課題とUD化に向けた手段の共有
9	・UD化に向けた手段の共有と実践 ・成果と課題の共有
10	
11	
12	
1	・取り組みのまとめ
2	・今年度の成果と課題の確認 ・来年度の研究へ向けた展望と方向性の確認
3	・来年度の研究計画 ・情報の引継ぎ

1 文部科学省 『通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について』 2022

https://www.mext.go.jp/content/20221208-mext-tokubetu01-000026255_01.pdf

2 板垣 静香 『英語教育におけるユニバーサルデザイン』 2020 国際学研究 9 巻 1 号

3 齋藤 万比古 『発達障害が引き起こす不登校へのケアとサポート』 2011 ヒューマンケアブックス

4 C.ピーターソン 『学習性無力感—パーソナル・コントロールの時代をひらく理論』 2000 二瓶社

5 川上 康則 『教室マルチリートメント』 2022 東洋館出版社

その他の参考

P. ハメッケン 『インクルージョン 普通学級の特別支援教育マニュアル』